

9月6日(木) 実践報告1 第3室(9411)

分野: Reading, ESP

国際ビジネス科における ESP の実践： 英文読解講座（社会心理学の文献を参考に）

An ESP Approach to Teaching Reading to International Business Students: Reading on Social Psychology

渋谷 由紀（敬愛大学）

グローバル化が進展する国際ビジネス分野で働く職業人の、英語に対するニーズや目的にあった英語力の向上を目指すために、ESP アプローチを取り入れた英語教育が求められている。本報告は、千葉県が大学委託再就職訓練コースとして、K 大学キャリア教育センターに委託した「国際ビジネス科」の講義課目の1科目として開講された「英文読解講座（社会心理学の文献を参考に）」の取り組みを紹介する。ESP アプローチを取り入れた専門英語を知識とともに教育し、国際的なビジネス・シーンで効果的な英語教育プログラムの作成に向けての可能性を探った。

1. 授業のカリキュラム上の位置づけ

大学委託再就職訓練は、千葉県が求職活動者を対象に、民間教育・訓練機関等に委託して、就職に役立つ職業訓練を実施するものであり、受講対象者は、海外と取引のあるメーカー・商社の営業職・貿易事務職等への再就職希望者である。コース全体の目標は英語力の向上と実務知識の修得を目指している（コースの他の英語関連科目は、商業英語、英文会計、ビジネス英会話、TOEIC®対策、英文ライティング、通訳トレーニング、法律英語入門など）。「情報化社会」において、情報を迅速かつ的確に収集し、読み解くための英文速読力は必須である。英文速読力の基礎となるパラグラフ・リーディングと、国際ビジネス・シーンで役立つ「心理学」へのニーズに応えるため、本講座は、ビジネスの場面でもなじみのある社会心理学のトピック（対人心理学や異文化コミュニケーション等）の文献や記事を教材として、英文の構造を学んでいく科目として2006年9月から12月までの10週間、全10回にわたって開講された。

2. 受講生とニーズへの配慮

コース入学の語学基準を満たした社会人学生10名、K大学学部生3名との計13名（K大学の学部生からも自由講座として受講生を募った）。受講生のTOEIC®スコアの範囲は490～700であった（600点台が6名）。受講生の将来の職業環境、カリキュラムからの要請、コース開始時の受講生のアンケート、英語力レベルなどを検討し、社会心理学の文献読解を通じて、英文速読・読解力、語彙力の向上と、英語で意見することの練習を中心とした指導内容を決定した。

3. 授業概要

1) 授業目的

- ・ 英文パラグラフの考え方を詳しく指導し、パラグラフ・リーディングを実践する。
テキストの中の情報順位をランクづけし、パラグラフ全体の一貫性を意識しながら

内容(情報)をパラグラフごとに的確に把握するパラグラフ・リーディングの技術を学び、英文読解力を向上させる。

- ・ 社会心理学のトピック(説得、非言語コミュニケーション、グループの影響、ステレオタイプと偏見、対人魅力、社会的ジレンマ等)に関連した文献をテキストとして、社会心理学の基本的な理論と概念を学ぶ¹⁾。

2) 授業の構成と指導内容

クラスサイズは小さく、受講生の動機づけも高かったため、教室活動形態は、個人単位の自発的な発言を中心とした。受講生の社会心理学に対する興味は高かったが、殆どが専門知識を持たずに受講したため、教授方法は「provider 型」²⁾の教授法を用いた。コースの第1-3週で、パラグラフ・リーディングのための基本的スキルについて解説し、第4週からパラグラフ・リーディングを実践した。具体的な授業の進行方法は以下の通りである。

- ・ トピックの解説。取り上げたテキストに関する背景的な知識を提供。専門用語の説明。受講生が内容に関連した経験や知識を日本語で発表する。
- ・ テキストを読んで、パラグラフ毎の main idea を英語でまとめて発表する。
- ・ パラグラフの構造と展開を分析し、アウトラインをまとめて発表する。
- ・ 内容の理解を確認する問題を解く。

4. 受講生からの評価と今後の課題

コースの後半で行なった受講生からの自由記述式アンケートから、トピックについては「社会心理学に興味を持つようになった」「実践的で役立つ学問で、もっと勉強したいと思うようになった」というような意見が寄せられたが、教材については、殆どの受講生が社会心理学の背景的知識を持たなかったため「テキストが難しすぎる」という意見が多くみられた。「パラグラフの読み方を理解できるようになると、英文全部や全ての単語を理解していなくても大体の意味を把握できるようになるとわかった」というような感想に代表されるように、英文速読力については一定の効果があったことが伺える。しかし、カリキュラム上の本講座の位置づけがコース開始前に受講生に明確に伝えられていなかったため、「なぜ社会心理学と英文読解なのか、それぞれ別の授業でやったほうがわかりやすいのではないか」という疑問を多くの受講生に持たせてしまうことになってしまった。

本講座は、社会心理学的な視点を学びながら英文読解力を高めるために ESP アプローチを取り入れていくことを提案し、その具体的方法を模索することを目的としたが、あくまでも試験的な段階である。コース開始前に受講生に対して「何をどのような目的でどのように教えるか」という情報を明確に伝える必要があること、受講生の英語能力・背景的知識とコースの達成目標とのギャップを認識することなどの課題が残された。しかし、本講座の試みは、英語でのビジネス実務能力の養成に焦点を当てた一般的な「ビジネス英語」「貿易英語」などの科目とは一線を画し、英語能力の向上と共に、ビジネス・シーンにおける心理学的知識と「国際感覚」「異文化コミュニケーション」等の情意面でのニーズに応え、受講生の幅広い教養の育成や国際的なコミュニケーション能力の促進にも貢献できるビジネス英語教育プログラムの可能性を示唆するものである。

¹⁾ 教材は、*Social Psychology* (Myers, 2005) McGraw Hill, *The Social Animal* (Aronson, 2004) Worth Publishers, Inc. からの抜粋、インターネットよりトピックに関連した記事をプリントアウトにて配布。

²⁾ *ESP の理論と実践*—これで日本の英語教育が変わる(2000) 深山晶子編集、三修社 第5章参照。